

【授業の視点】

パネルディスカッションで異なる考えを聞き合って話し合ったことは、公平さについての捉え方を広げ、公平な社会を実現しようとする態度を養うために有効であったか。

道徳科学習指導案

令和4年12月7日（水）第5校時 音楽室

1年〇組（男子〇〇名、女子〇〇名、計〇〇名）指導者 〇〇〇〇

1 主題名 「公平な社会をつくるために大切なことはなんだろう」 C- (11)

教材名 「塀の向こう側で何が」「義足のチャンピオン」

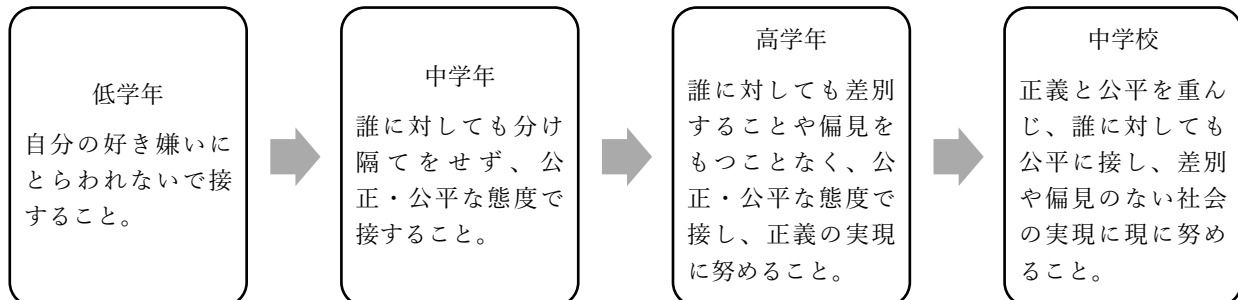
出典 新・中学生の道徳 明日への扉1（学研）

2 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」内容項目 C-(11)「公正、公平、社会正義」の「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」を基に設定した。

中学生は、社会の在り方について目を向け始める時期であり、社会の矛盾や課題に気付き、公平・公正への意識も強くなる。現実の社会における矛盾や葛藤、差別や偏見などの社会的な問題を見いだすこともあるだろう。その時、現状を諦めて見過ごすのではなく、道徳上どのような問題があるのかを考え、解決に向けて協働して話し合うことが求められる。公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方をさけるよう努めることが必要であり、好き嫌いの感情があってもそれにとらわれず、他者に対して偏見をもたないように努めることが大切である。そして、自分と同様に他者も尊重し、相手の状況や立場を考慮しながら、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとするのが重要である。しかし、中学校に入学して間もない段階では、自己中心的な考え方や偏った見方をしてしまい、他者に対して不公平な態度をとったり、周囲で公正でないことがあっても、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止できないこともある。そこで、社会や自分の周りにおける矛盾や課題に目を向け、不公平さに気付いたり、公平・公正を判断する際には何が根拠となるのかを深く考えたりすることが、差別や偏見をなくし、正義と公正を実現することにつながると考え、本主題を設定する。



(2) 生徒観

(削除)

(3) 教材観

本教材は、日常生活の中で公平ではないと思うことや、義足のアスリートであるマルクス・レーム選手のオリンピックへの参加条件をめぐる是非などを考えることを通して、公平さについて様々な見方ができることを問題提起するものである。

性別や年齢の違い、家庭環境によって公平ではないと感じることやレーム選手がオリンピックに出場することができなかつたことについて考え、議論をする活動により、公平とはどのような状態なのか、公平な社会をつくるためにはどのようなことが必要なのかを考えさせる内容である。本当に公平な社会とはどのようなものなのかを多面的・多角的に考えることができる教材である。

友達に対して小さな偏見をもって接し、それが原因で不公平な接し方をしてしまうことは日常生活でよくあることであり、本学級の生徒もなじみやすい教材であると考え。レーム選手がオリンピックに出場することに賛成するかどうか、そこにはどんな問題があるのかを問いかけ、公平な社会をつくるために大切なことは何かを考えさせることができる。

授業では、レーム選手がオリンピックに出場することに賛成する立場であれば公平、反対する立場であれば平等について考えており、時には平等、時には公平にする場面があることに気付かせることができる。また、議論を通して公平な社会をつくるためには、自分の視点だけではなく、様々な立場で物事を考えることが大切だと気付かせることもできる。

3 指導方針

〈全体を通して〉

- ・活発な意見交流が図れるよう、普段の他教科の授業においても話し合い活動を多く取り入れ、生徒が自分の意見を発表しやすい雰囲気をつくる。
- ・意見の全体共有の時間では、多くの生徒の意見を聴き、自分との相違点や共通点を見つけ、考えを広げることができるようにする。
- ・ICTを活用することで、意見の共有・交流を迅速かつ適切に行う。

〈導入の段階〉

- ・ねらいとする価値について、自分事として捉えられるように、事前に行ったアンケート結果を提示する。世の中には不公平なことが多いことに気づき、問題意識をもたせ、課題を提示する。
- ・教材を使用し、具体例をモニターに提示しながら平等と公平の違いについて理解できるようにする。

〈展開の段階〉

- ・ロイロノートを使用し、レーム選手がオリンピックに出場することに「賛成」に近い意見をもつ生徒はテキストの色を赤、「反対」に近い意見をもつ生徒はテキストの色を青に設定し、理由を一言で記入し、提出箱に提出したものをモニターに提示することで生徒たちがどちらの意見をもっているかが一目でわかるようにする。
- ・パネルディスカッションのときは、教室前方に座席を用意し、各意見の代表者3名ずつ指名し、計6名を座席に座らせる。指名方法は、意図的指名とする。
- ・パネルディスカッションは、代表者の意見をモニターに提示しながら発表させる。発表を聴きながら、相づちをうつ生徒や発言をする生徒に意見を述べさせ、学級全体での議論ができるようにする。パネルディスカッションで生徒から出た意見は板書にまとめておく。
- ・パネルディスカッションを通して、「賛成」「反対」の根拠や判断理由を考え、平等と公平で迷ったり

状況や立場によって公平さも変わったりすることに気付かせる。

〈終末の段階〉

- ・導入で示した本時の課題について再度触れ、ロイロノートを通して配布したワークシートに課題についての自分の意見をまとめる。提出箱に提出させ、モニターに提示することで、学級での意見の全体共有が迅速に行うことができるようにする。その際、できるだけ多くの生徒に発表させ、多様な考えに触れることができるようにする。

4 校内研修との関わり

本校の校内研修では、『『自己の考えを深め、表現できる生徒の育成』～学び合いの場を工夫した授業づくりを通して～』と設定し、授業構想シートとバズセッションを中心とした学び合い活動を取り入れた授業づくりを行っている。

本時でも、授業構想シートを作成し、ねらいを焦点化し、ねらいにつながるめあてや発問、生徒の思考の流れを意識した学習活動を吟味した。また、一人一台端末を使い、生徒の学習意欲を高め、意見の共有・交流を迅速かつ適切に行うことができるようにする。生徒主体となり、対話的な活動を通して「公平な社会をつくるために大切なことは何か」を生徒の発言の中から導き、偏ったものの見方や考え方をせずに、公平な社会を実現しようとする態度を育てていきたい。

5 人権教育との関わり

人は、自分の好みで相手に対して差別や偏見をもち、不公平な態度で接してしまうことがある。指導に当たっては、生徒がこれから出会うであろう問題や課題に対して、道徳的な問題を多角的に考え、主体的に対処しようとする資質能力を養いたい。また、解決の難しい答えの定まっていない問題や課題について、一面的な理解では解決できないことに対して、多様な価値観や立場の人と協働して問題を解決していこうとする意欲を育みたい。

そこで本主題では、身の回りにある課題に目を向け、道徳上どのような問題があるのかを考え、解決に向けて協働して話し合う姿勢を大切にするため、レーム選手のオリンピック参加の是非を巡る議論を行いたい。これを通して、健常者、障害者のそれぞれの立場から公平を考えることができ、誰に対しても分け隔てなく、公平で公正な態度で接することができ、公平な社会の実現を積極的に努めるようとする態度を育てたい。

【育てたい能力・態度】

○知性

差別や偏見を無くし、健常者も障害者も全ての人の権利を尊重する大切さを理解する。

○判断力

レーム選手の経歴やオリンピックの参加条件等の情報を踏まえ、公平な社会をつくるために大切なことについての自分の意見を整理し、物事を公平に判断する。

6 本時の学習

(1) ねらい レーム選手のオリンピック参加を支持するか否かという議論を通して、公平な社会をつくるために大切なことについて考え、偏ったものの見方や考え方を無くし、公平な社会を実現しようとする態度を養う。

(2) 準備 教科書、大型モニター、ICT 端末、掲示カード

(3) 人権教育の視点

○知性

差別や偏見を無くし、健常者も障害者も全ての人の権利を尊重する大切さを理解する。

○判断力

レーム選手の経歴やオリンピックの参加条件等の情報を踏まえ、公平な社会をつくるために大切なことについての自分の意見を整理し、物事を公平に判断する。

(4) 展 開

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
<p>1. 「公平」について問題意識をもつ。 ○「公平」とはどのような意味でしょうか。 S. 同じ量の補助を与えることを「平等」、人の能力や個性に応じて補助の量を変え、全員が均等の能力になるようにすることを「公平」というね。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><課題>公平な社会をつくるために大切なことは何だろうか？</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のアンケートで生徒たちに質問した『日常生活の中で「公平ではない」と感じる』の回答結果をモニターに示し、共有することで、生徒に本時の学習と日常生活を関連付けさせる。 ・4コマ漫画『塀の向こうで何が』とモニターに提示するイラストを参考に「公平」と「平等」の違いを理解させる。
<p>2. 教材について確認する。</p> <p>3. レーム選手がオリンピックに出場することについて自分の意見をまとめる。</p>	8分 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・マルクス・レーム選手の経歴をモニターと掲示カードを使用して紹介する。 ・教材は理解を深めるため、事前に読む。
<p style="text-align: center;">〈中心発問〉</p> <p style="text-align: center;">○レーム選手がオリンピックに出場することをあなたはどのように考えますか？</p>		
<p>○レーム選手がオリンピックに出場することをあなたはどのように考えますか？ S. 義足が有利に働いているならオリンピックに出られなくて当然だね。 S. そもそも健常者に障害者が勝てるはずがないという考えが差別である。</p> <p>4. パネルディスカッションを行う。 S. 公平な条件でないなら出場させるべきではない。 S. カーボン義足は反発力があるので健常者と比べると公平ではない。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートに「賛成」の意見をもつ生徒は赤、「反対」の意見をもつ生徒は青のテキストを使用し、理由を記入し、提出箱に提出させる。 ・モニターに全体の意見を提示し、「賛成」「反対」の生徒を各3名ずつ指名し、合計6名のパネラーを中心に全体で議論を行う。 ・パネラーの意見を聴きながら相づちを打つ生徒や意見を言う生徒の考えを聴く。

<p>S. もっと彼の努力を認めても良い。</p> <p>S. そもそも障害者が健常者に劣るという考え方がおかしい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・議論の中で出た意見を黒板にまとめる。 ・議論の様子を見て、補助発問をする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>〈補助発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【賛成】 レーム選手が出場することによって、自分がオリンピックに出られなくなってしまったらどう思いますか？ ・【反対】 義足が優位に働くから出場できないのならば、メガネやコンタクトレンズをつけているアスリートは出場して良いのでしょうか？ </div>		
<p>5. 意見を整理する</p> <p>○パネルディスカッションを通して皆さんの意見で変化したことはありますか。</p> <p>S. 絶対にオリンピックに出すべきだと思っていたけれど、みんなの意見を聴いて出さない方が良いかもしれないと思ったよ。</p> <p>○皆さんが自分の意見をまとめているときは、異なる意見をもつ人たちのことを考慮に入れて考えることができていましたか。</p> <p>S. 健常者と障害者の両方の立場で考えていれば、もっと公平な判断ができていたのではないかな。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提出箱に提出したテキストの自分の意見で変わったことがあれば書き換える。テキストの色を書き換えても良いこととする。 ・「賛成」の意見をもつ生徒は、1人1人の違いに寄り添う公平、「反対」の意見をもつ生徒は、条件を揃えようとする平等について考えることができおり、時には、平等の考え方も求められ、公平と平等で迷うこともあることに気付かせる。 ・自身の意見をまとめているときは、他の立場に立てていなかったことに気付かせる。
<p>6. 課題について考える。</p> <p>S. 不公平な出来事が起こった時には、人ごとにせず、意見を言ったり、みんなで解決策を考えたりすることが大切。</p> <p>S. 「○○だから○○だ」という偏見をもたないことが大切。</p> <p>S. 様々な立場で考えることが大切。</p> <p>S. イラストの背の高い子が背の低い子の立場を考え、もっと高い台を用意しようとするのが公平だね。</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公平な社会をつくるために大切だと考えることをペアで話し合う。 ・導入で提示した「公平」と「平等」の違いのイラストを再度提示し、平等を公平に変える方法を考える。 ・単に「平等」という観点だけでなく、目的や状況に応じて「公平」の判断基準もかわること、簡単に判断したり解決したりできないことがあることに気付けるようにする。

<p>7. 振り返り</p> <p>S. 差別や偏見をもたずに、公平に友達と接していきたいな。</p> <p>S. 物事を考えるとき、決めるときは、様々な人の立場から考えるようにしたいな。</p> <p>○レーム選手はどのようにすれば「公平」だと思えるだろうか。</p>	5分	<p>・本時の授業を通して、思ったことや学んだこと、感想等をワークシートに記入する。</p>
---	----	--

【評価の視点】

- ・本時の振り返りの場面で、公平な社会を実現するために大切なことについて、自分との関わりで考えを深めているか。
- ・パネルディスカッションや全体での話し合いを通して、差別や偏見のない公平な社会を実現するために大切なことについて、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

(方法) ロイロノート、発言

7 板書計画 ※板書計画は、必要に応じて表記する。

公平とはなんだろう

課題 公平な社会をつくるために大切なことは何だろうか？

◎ レーム選手がオリンピックに出場することを・・・

○ 「賛成」

- ・ 今まで頑張ってきたのに可哀そう
- ・ 踏み切りを義足ではない足にすれば良い

一人一人の違いに寄り添う・公平

○ 「反対」

- ・ 義足が有利に働くのはひきようだ
- ・ 健常者とは条件が異なってしまう

◎ 公平な社会をつくるためには？

- ・ 自分だけではなく、様々な立場で考えること
- ・ 偏ったものの見方や考え方をしないこと

条件をそろえようとする・平等